

## 大相撲九州場所観戦記

横綱照ノ富士は今場所も休場。過去に稀勢の里を引退に追い込んだにも関わらず、どこからも、異議も雑音も聞こえてこないのは不思議な気がする。

## ●序盤終了(5日目)

場所前の期待としては、若隆景と尊富士が注目すべきところかと思っていたのだが、序盤をみたら残念ながらちよいと外れだった

序盤五日間を終えてみたら、隆の勝・熱海富士の相撲が光っていたが、まだ先は長いのでどういう展開になるかはわからない。

豊昇龍の相撲は速さがあるが、どこことなく乱暴さを感じられる。琴櫻の相撲も力強さよりも流れの中でうまくやったという相撲が目立つ。大ノ里はドタバタと相撲を取っている感じが強く、先場所のような迫力は感じられない。五里霧中の船出というところだろうか。

成績	大関	関脇・小結	平幕
5戦全勝	豊昇龍		隆の勝・阿武尅
4勝1敗	琴櫻・大の里		阿炎・熱海富士・御嶽海・豪ノ山

## ●中日を終えて

そして中日を終ると早くも全勝はいなくなり、1敗と2敗に8人が並ぶ状態になった。

その中に三大関が含まれているのが唯一の救いか。

ここまでの土俵を見た印象としては、特にこれは凄くと思えるような力士は見当たらず、大関陣もどことなく頼りなさが漂う感じがするので、しばらく静観というところか。

成績	大関	関脇・小結	平幕
7勝1敗	琴櫻・豊昇龍		隆の勝・阿武尅
6勝2敗	大の里		阿炎・宝富士・尊富士

速攻と鋭い踏み込みで少しずつ勢いを増している豊昇龍と腰の構えがしっかりしている隆の勝が少しばかり目立つ存在

かもしれない。まだ何が起きるかわからず、行方を想像するのは早そうな気がする。

## ●10日目が終り

賜杯争いの図式が見えてきた。腰高のまま突っ走って墓穴を掘った大の里は3敗になって脱落。

昨日まで、やや投げ技に拘りすぎていた豊昇龍は、じっくり腰を下ろした寄り身で琴勝峰を下して1敗を堅持。琴櫻も少しずつ「攻め」を感じられる相撲になって並んだ。大関二人が少しずつ「本気」にな

成績	大関	関脇・小結	平幕
9勝1敗	琴櫻・豊昇龍		隆の勝
8勝2敗			阿炎・尊富士

ってきたように感じる。この二大関の後に続く隆の勝の落ちてきた取り口が気になるが、明日の大の里戦の結果次第。

## ●11日目

この日の取組を終ってしまえば、宇良・平戸海戦の話題に尽きると感じた。

よく稽古をして鍛えた二人ならではの流れて、土俵上の激しい攻防のあと、土俵際の粘り強い身のこなして物言いがつき取り直しになった。取り直し後の取組もほぼ同じような展開で再び物言いがつき取り直し。再度の取り直しも激しい動きになったが、平戸海の腕を手繰った宇良が勝機をつかみ終戦。両力士とも疲労困憊の状況だったが、観戦する側から見れば「素晴らしい」の一言だった。

## ●12日目

前半の取組では豪ノ山の鋭い攻めが光っていた。

阿炎は粗雑で乱暴な取り口であまり美しさは感じられないが、9勝3敗になった。

宇良は昨日の平戸海戦で二回物言いがついて、計三番をとることになったが、その疲れも見せず欧勝馬を下して負け越し決定後でも連勝とした。

隆の勝は霧島にうまく裁かれてしまい2敗に敗退。豊昇龍は腰の下りた安定した寄り身で正代を寄り切り、1敗を堅持。琴櫻は大栄翔に突っ張る機会を与えずに土俵外へ運び、これまた1敗を守った。

成績	大関	関脇・小結	平幕
11勝1敗	琴櫻・豊昇龍		
10勝2敗			隆の勝

大の里が尊富士を落ち着いて押し出したが、拍手の数も今ひとつ盛り上がりならず、尻つぼみな結びの一番となった。

これで、賜杯争いは大関二人に絞られた感

がある。

## ●13日目

玉鷲が新入幕の朝紅龍を力強い相撲で押し出したのが印象に残った。7日目に40才の誕生日を迎えた玉鷲の体は、筋肉に張りがあり30前を感じさせる。

13日目まで来ると、賜杯の行方を左右する取組に関心が集るのは致し方ないことかもしれない。

結び前の大の里・豊昇龍戦は会場の盛り上がりは最高潮に達したが、相撲はあっけなく豊昇龍の速攻勝負で終わった。後半戦の大の里は腰の位置が高く、やや前のめりで、しかも差し手が不完全なまま突っ走る相撲が目立った。今日もそこを突かれた感じだった。

結びの一番、琴櫻・隆の勝戦は、隆の勝が力を出す前に琴櫻に捕まえられてしまい、手間がかかることなく勝負がついてしまった。

結果として、12勝1敗で琴櫻・豊昇龍が並び、2敗で後を追う力士は誰もいなくなったので、千秋楽・結びの一番・相星決戦という理想的な形になりそうな気配になってきた。

この場所も残り二日間となった。三賞を占う意味で、今場所活躍した(している)力士を並べて見る。

関脇・小結はふるわず、あまり目立った活躍を感じる力士はいなかったので、平幕に焦点をあてて見る。王鵬・平戸海は自己最高位の前頭筆頭に上がってきたが、目下藻掻き苦しんでいる最中。こんなことを何度か経験している内に力をつけてくるのかもしれない。

阿炎・若隆景が自分の持ち味を出して活躍したが、まだ全盛期の力には戻っていない。

隆の勝は久しぶりに重心を下げた安定した腰の構えで「隆の勝らしい押し相撲」が復活していた。

豪ノ山の実直な押し相撲は輝いていた。何よりも引きや叩きがないのが素晴らしい。

阿武尅・尊富士の若手力士が、基本に忠実な相撲で力をつけているのは頼もしいが、後半失速した。

それとは逆に、宝富士・高安・玉鷲などのベテラン力士がいつの間にか勝ち越しているのも興味深い。

そんなこんなで、「私版今場所活躍した平幕力士」として三人を挙げるならば、

一位=隆の勝、二位=豪ノ山、三位=玉鷲 というところで、枠外で阿炎・若隆景を揚げて見た。

## ●いよいよ14日目

今日も注目は二人の大関の取組だけのような空気。

琴櫻は大の里を上手投げで下した。大の里は今日も浅い右差して左はまわしを引かずに腰高で突っ走り、軽く振り回されてしまった。左で前禪を取っていれば攻めに転じることもできた筈なのに、今場所はこのパターンが目立つ。

豊昇龍は速攻で両差しになり、土俵中央で霧島を高々と吊り上げて土俵際まで運び、吊り出し。

これで千秋楽相星決戦の準備が整った。

昨日、平幕で健闘している三力士の名を挙げたが、今日は三人とも黒星で意気消沈。さて、こういう展開になるとすぐに風が吹き始める「綱取り騒動」。結びの一番を征して優勝した力士については勿論のこと、敗れた力士も準優勝だとして、次の場所は「綱取り」になると騒ぐに相違ない。騒ぎに入る前に、両大関の今年一年（六場所）の成績をまとめておくと。（今場所は14日目現在）このデータをどう読み取るかは自由だとして……

	1月	3月	5月	7月	9月	11月	合計	勝率
琴櫻	13-2*	10-5	11-4	10-5	8-7	13-1	65-24	0.730
豊昇龍	10-4-1	11-4	10-5	9-4-2	8-7	13-1	61-25-3	0.685

成績の表示=勝-敗-休

\*琴櫻=1月場所は関脇、3月場所以後は大関

●そして千秋楽

隆の勝は中に入ろうとする若隆景をうまく裁いて叩き込み11勝4敗で敢闘賞。

若隆景は敗れたものの、10勝5敗で技能賞。殊勲賞は阿炎と決まった。

結びの一番は相星決戦というまたとない出来事。豊昇龍ののどわを交えた突き押しをうまくいなして叩き込みで琴櫻が賜杯を手にした。

琴櫻の直近6場所の成績は66勝24敗（勝率 0.733）だが、先場所は8勝7敗なので安定度の上でやや不安が残る。

豊昇龍は、61勝26敗3休（勝率 0.678）で、七月場所は9勝止まりで九月場所も8勝しかあげられなかった。両力士ともこの成績のばらつきをどう評価するかが争点ではあるが、評価して裁定を下す機関はそのような点については頓着せず、ムード先行で決するのだろう。

大の里は、すぐにでも横綱まで駆け上がるに違いないと騒いだ人達が沢山いたが、ご覧のような結果だった。横綱という神格に近い地位に上げる力士を選ぶには、実力を充分に見て評価する必要がある。この心配が杞憂に終ることを願って……。

以上